

問1 海岸線が複雑に入り組んだリアス海岸が形成される主な要因として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 鳥取公立入試 類似)

- |                                     |  |                                     |  |
|-------------------------------------|--|-------------------------------------|--|
| 1. 山地が海に沈んだり海面が上昇したりして、谷に海水が入り込んだため | 2. 河川が運んできた土砂が河口付近に厚く堆積して、海岸線が海側へ進んだため | 3. 波の侵食作用によって海岸の崖が削られ、平坦な地形が形成されたため | 4. 地震などによる急激な土地の隆起によって、かつての海底が陸上になったため |
|-------------------------------------|--|-------------------------------------|--|

問2 中央高地に位置する都市の統計において、年間の降水量が1000mm程度と非常に少なくなる理由として、地形の観点から説明した文として正しいものはどれですか。 (2016年 兵庫公立入試 類似)

- |   |  |  |   |
|---|--|--|---|
| 1. 周囲を高い山脈に囲まれており、海からの湿った空気が入り込みにくくなっているため。 | 2. 標高が高いために上昇気流が発生しにくく、雲が発達する前に風が吹き抜けてしまうため。 | 3. 平地が少なく地表面の温度が上がりにくいと、上昇気流に伴う雨雲が発生しないため。 | 4. 広大な盆地が広がっているため、海からの湿った風が届く前にすべて陸地で乾燥してしまうため。 |
|---|--|--|---|

問3 中国山地と四国山地の間に位置する瀬戸内海沿岸の地域では、年間を通じて降水量が少ないことが特徴です。このような気候が形成される地理的な背景を、季節風と地形の関係から説明したものととして最も適切なものはどれか。 (2019年 香川公立入試 類似)

- |   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| 1. 夏は太平洋からの湿った季節風が四国山地で、冬は日本海からの湿った季節風が中国山地でさえぎられ、水分を失った乾燥した風が流れ込むため。 | 2. 夏は中国山地を越えて北風が吹き込み、冬は四国山地を越えて南風が吹き込むことで、一年中高気圧に覆われやすくなるため。 | 3. 周囲の山地によって湿った季節風がすべて遮断される結果、瀬戸内海の上空で常に強い下降気流が発生し、雲が形成されなくなるため。 | 4. 日本海側と太平洋側の両方から吹き込む湿った季節風が、山地を越える際に同時に衝突し、瀬戸内海の上空で乾燥した性質に変化するため。 |
|---|--|--|--|

問4 高知県の土佐湾などの沿岸部で見られる、海岸から海に向かって続く水深が約200メートルまでのゆるやかで平坦な海底地形を何と呼びますか。 (2024年 和歌山公立入試 類似)

- |        |       |       |       |
|--------|-------|-------|-------|
| 1. 大陸棚 | 2. 海溝 | 3. 海盆 | 4. 海嶺 |
|--------|-------|-------|-------|

問5 起伏の激しい山地が沈水することによって形成された、海岸線が複雑に入り組んだ地形を何というか、最も適切な名称を選択してください。 (2019年 鹿児島県公立入試 類似)

- |          |       |        |        |
|----------|-------|--------|--------|
| 1. リアス海岸 | 2. 砂丘 | 3. 干拓地 | 4. 三角州 |
|----------|-------|--------|--------|

問6 広島市の中心部を流れる太田川などの河口付近に見られる地形の成り立ちについて述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 静岡公立入試 類似)

- |  |   |  |   |
|--|---|--|---|
| 1. 河川が運んできた土砂が、流速の落ちる河口付近に堆積して平坦な土地が形成された。 | 2. 山地から平地に出る谷口付近において、砂利などが扇状に堆積して緩やかな傾斜地が形成された。 | 3. かつての海底や川底が地殻変動によって隆起し、周囲より一段高い平坦な面が形成された。 | 4. 風によって運ばれた砂が、海岸や乾燥地において積み重なり、丘のような地形が形成された。 |
|--|---|--|---|

問7 日本の気候区分のうち、冬に北西の季節風が日本海を渡る際に水分を蓄え、山脈にぶつかすることで多くの雪を降らせるため、12月から2月にかけての降水量が他の月と比べて著しく多くなる特徴を持つものを何と呼びますか。 (2019年 秋田県公立入試 類似)

- |            |            |           |            |
|------------|------------|-----------|------------|
| 1. 日本海側の気候 | 2. 太平洋側の気候 | 3. 瀬戸内の気候 | 4. 中央高地の気候 |
|------------|------------|-----------|------------|

問8 本州中央部の岐阜県、長野県、静岡県にまたがる飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈の3つの山脈は、標高3,000m級の峻険な山々が連なっていることから、あるヨーロッパの山脈になぞらえて何と呼ばれていますか。 (2023年 岐阜公立入試 類似)

- |           |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 日本アルプス | 2. 日本ピレネー | 3. 日本アンデス | 4. 日本ヒマラヤ |
|-----------|-----------|-----------|-----------|

問9 石川県の能登半島付近から和歌山県の紀伊半島南部にかけて、地形の断面図を作成したと想定します。この区間の地形の配置と標高の変化について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 兵庫公立入試 類似)

- |  |   |   |   |
|--|---|---|---|
| 1. 日本海側から標高が上がり、飛騨山脈などの険しい山岳地帯を越えた後、濃尾平野などの標高の低い地域を経て、再び紀伊山地の険しい山並みが現れる。 | 2. 日本海側から太平洋側まで、標高の変化がほとんどないならかな平野部が続いており、大規模な山脈は存在しない。 | 3. 能登半島付近が最も標高が高く、南下するにつれて標高が一定の割合で下がり続け、紀伊半島南端で海拔ゼロメートルに達する。 | 4. 近畿地方の中央部に広大な盆地が広がっているため、断面図の中央部分は標高がマイナスとなり、周囲を100メートル程度の低い丘陵が囲んでいる。 |
|--|---|---|---|

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 山地が海に沈んだり海面が上昇したりして、谷に海水が入り込んだため	リアス海岸は「沈水海岸」の一種です。起伏の激しい山地が沈み込む、あるいは地球温暖化などによる海面上昇が起こることで、陸上の谷の部分に海水が深く入り込み、非常に複雑な屈曲を持つ海岸線が作られます。選択肢にある土砂の堆積は三角州などの要因であり、土地の隆起や海面の低下は離水海岸（海岸段丘など）の形成要因です。
問2	<b>答え 1</b> 周囲を高い山脈に囲まれており、海からの湿った空気が入り込みにくくなっているため。	中央高地は、飛騨・木曾・赤石山脈といった高い山々に囲まれています。海から吹いてくる湿った風は、これらの山を越える際に斜面で雨を降らせてしまうため、山を越えて盆地側へ吹き降りる際には乾燥した空気となります。この地形的要因により、内陸の盆地部では年間を通じて降水量が少なくなります。
問3	<b>答え 1</b> 夏は太平洋からの湿った季節風が四国山地で、冬は日本海からの湿った季節風が中国山地でさえぎられ、水分を失った乾燥した風が流れ込むため。	日本の気候は季節風の影響を強く受けますが、瀬戸内海周辺は北を中国山地、南を四国山地に囲まれています。夏に太平洋から吹く湿った季節風は四国山地で、冬に日本海から吹く湿った季節風は中国山地でそれぞれ遮られ、山を越える際に斜面で雨や雪を降らせます。その結果、山地を越えて瀬戸内海側に吹き下ろす風は乾燥した空気となるため、年間を通じて降水量が少なく、晴天の日が多くなります。
問4	<b>答え 1</b> 大陸棚	水深が200メートル程度までの非常に浅く平坦な海底地形を大陸棚といいます。太陽の光が海底近くまで届くためプランクトンが発生しやすく、多くの魚が集まる好漁場となります。高知県の土佐湾や長崎県・福岡県の西側に広がる東シナ海などに広く分布しています。
問5	<b>答え 1</b> リアス海岸	山地の谷の部分に海水が入り込むことで、入り江と岬が交互に並ぶ複雑な海岸線が形成されます。この地形はリアス海岸と呼ばれ、日本では東北地方の三陸海岸、三重県の志摩半島、福井県の若狭湾、そして九州北西部の長崎県などに多く見られます。もともと山であった場所が沈んだため、平地が少なく水深が急に深くなるという特徴があります。
問6	<b>答え 1</b> 河川が運んできた土砂が、流速の落ちる河口付近に堆積して平坦な土地が形成された。	河口付近に形成される三角州は、河川の運搬作用によって運ばれた土砂が堆積することで作られます。選択肢にある「谷口付近に形成される傾斜地」は扇状地を指し、三角州よりも土砂の粒が大きく、水はけが良いという違いがあります。広島市の中心部は、複数の河川に分かれた河口の三角州上に発展した代表的な都市です。
問7	<b>答え 1</b> 日本海側の気候	日本の冬はシベリア高気圧から北西の季節風が吹き出します。この風が暖流（対馬海流）の流れる日本海を渡る際に水蒸気を蓄え、日本の背骨にあたる奥羽山脈や越後山脈などにぶつかって上昇気流となることで、日本海側に大雪をもたらします。そのため、冬の降水量が他の季節に比べて非常に多くなるのが最大の特徴です。
問8	<b>答え 1</b> 日本アルプス	本州の中央部（中部地方）を南北に走る飛騨・木曾・赤石の3つの山脈を総称した呼び名です。明治時代にイギリス人技師のウィリアム・ガウランドが、その景観をヨーロッパのアルプス山脈になぞらえて命名し、後にイギリス人宣教師のウォルター・ウェストンが世界に紹介したことで定着しました。その険しさから「日本の屋根」とも称されます。
問9	<b>答え 1</b> 日本海側から標高が上がり、飛騨山脈などの険しい山岳地帯を越えた後、濃尾平野などの標高の低い地域を経て、再び紀伊山地の険しい山並みが現れる。	中部地方から近畿地方にかけての断面図を考えると、日本海側の能登半島から内陸部へ向かうにつれて標高が高くなり、飛騨山脈（北アルプス）などの「日本の屋根」と呼ばれる高峻な山々が存在します。その後、伊勢湾周辺に広がる濃尾平野などの低地を挟み、さらに南下すると紀伊半島を構成する険しい紀伊山地を通過するという、起伏の激しい地形的特徴を捉える必要があります。